



no. 6

## 歯医者に行きました！！

息子のムシ歯が気になったのは3歳ごろから。奥歯に黒いところをはっきりと見えるようになってきました。コスモスに通う前の私は常にバッグやポケットにハイチュウやグミ、アメを持っていました。何の為にしょう…？それは、息子をおとなしくさせるためでした。さわいでほしくない場所で、それらのお菓子は常に私のポケットから息子に与えられていました。ひどい時はあのハイチュウが1本1時間ほどでなくなってしまうのです。今からすれば全く持って信じられない私がかそこにいました。甘いお菓子はムシ歯になるだけでなく、特に弱さのある子には毒とも言えるほど、心の静けさを奪う食べ物だと私は実感しています。

歯磨きだって、全くさせてもらえず、何度指を噛まれた事か…。しかし、今思えば、私の覚悟の弱さを息子は見抜いていたと思います。私は口では「ムシ歯は困る、歯みがきさせなくちゃ！！」と言いながら、イヤだと暴れる息子に向き合うことに疲れていましたし、そのうちにやらせてくれる日が来るだろうとタカをくっていました。前歯の茶色の初期ムシ歯も気になりだし、やっぱり歯医者…と悩んでいました。歯医者で悩むもう一つの原因が以前に保育園で行った歯科検診で、あの口に入れる棒をなんと噛み切ってしまったことでした。歯医者＝暴れる姿、取り押さえて治療する姿しかイメージできませんでした。

悩みながら主人に相談したり、どこかいい歯医者はないのかと周りの先生方に聞いて回っていました。そんな所、ある一件の歯科医の情報を得ました。以前保育園の主治医をされていて、コスモスの子どもたちにとっても理解を示してくださった方とのことでした。ちょうどぶちぶろうの施設長にも相談していたので、その先生について尋ねてみました。「優しい先生だよ。話を聞いてくださる先生だから、とにかく連絡してみれば？ダメでもいいじゃない。歯医者なんてたくさんあるんだから…。」と何気ない一言に背中を押してもらった気分になりました。変な所にまじめな私は、一度この先生と決めたら絶対に逃げてはならない！！みたいな気持ちでしたが、息子と相性の合う方に診ていただく！！と勇気が出てきました。

さっそく電話。受け付けの女性の対応もさることながら、すぐに先生が代わってくださり、息子の様子を事細かに聞いてくださいました。そして「とにかく一度来てみてください。ダメならそれでもいいですから。」と朝の早い時間に予約を入れてくださいました。翌日主人に仕事を休んでもらい（治療を嫌がったら押さえつけてもらうために…）、3人で行きました。場所見知りもする息子があまりくずらず中にスッと入って行きました。待合室で少し待っていると大柄で優しいような先生が登場。すると息子の目線までしゃがみこんで息子に話しかけてくれました。素っ気ない態度の息子でしたが、先生が次々に持ってくる歯ブラシやらキカイやらにつられて何と診察台まで来てくれたのです。しばらく先生と二人でキカイであそんだあと、私が抱っこした状態で診察台に仰向けになりました。その様子を見た先生が、「お母さん、いけるかもしれないです。ちょっと一人で座らせてみましょうか？」不安ながらも私が診察台から降りても息子は一人で座ることができたのです。「じゃあ、今日は先生と歯みがきしようね」と優しく先生に言われ、生まれて初めて親以外の人に口を開いてみせたのでした。

先生が「30分たったね。どんな子でも小さな子は30分が治療の我慢の限界と考えています。だからおしまいだよ。さあ、〇〇くん、もう終わったよ。」まだ診察台で遊びたそうな息子でしたが一人で降りて待合室に戻ってきました。主人も私もものすごく覚悟してきた分、ひょうしぬけしてしまいました。先生は治療中、常に息子に話しかけていました。言っても分からないだろうとか、そんな態度はみじんも感じられませんでした。「次はまた1週間後に来てください。まずは、私を信頼してもらえなければ〇〇くんは治療させてはくれないと思います。実際の治療に入るまでの時間がかかるとは思いますよ、多分、〇〇くん、できると思いますよ。お母さん、大丈夫。」先生の優しい言葉と何事もなかったように車に乗り込む息子の姿に目に涙が滲みしました。

私は、息子のような子は、押さえつけるか、全身麻酔かでの治療としか考えていませんでした。ぶち

ぶろうの施設長にご紹介くださったお礼と、自分が息子の治療に対してそう思っていた事を伝えました。すると返ってきた答えは、「お母さんは特別なことって考えるかもしれないけど、本当は〇〇くんにとっては普通のことなのかもしれないよ。だからもしかしたらもっともって普通にできることはたくさんあるのかもしれないね・・・」その言葉に、私が普段からやはり息子を普通の子と違うと思っているのだと気付かされました。園長先生が前に「弱さのある子を一番差別しているのは親なんだよ。私は差別なんてしていないから、他の子と同じように扱おうとする。すると厳しいとか、かわいそうとかいう親がいる。どんな子でも育とうとする力があるの。それを親がわが子を差別すること、過剰に保護することで、生きる力が育たなくなるのよ。」

たかが歯医者である。しかし、その歯医者一つ取っても私にとっては大きなハードルだった。しかし、息子に理解を示してくれる先生に出会い、そのハードルは越えることができた。この一年半で息子が大きく成長し、少しずつ心に安らぎがあらわれてきたのも、こうした普通の感覚で息子に接してくれる多くの先生方あってのことと痛感しました。

まだまだ、歯の治療は始まったばかり。歯医者の先生は、楽しく遊ばせることも大事だけど1回来たら一つ我慢して治療しようね」と言って最後にぐっと押さえてムシ歯の進行止めの薬を塗ってくれる。一瞬はワーッと泣けど意外にケロッとして先生とタッチをして帰れるようにまでなった。また一つ、私自身が私の心のハードルを越えたような気分になりました。

Sの  
母